

学び合う段階（全体）

「授業に取り入れる手立て」
の実践例です。



(ア) 発表された図や式のみを提示して解釈したり、関連付けたりする場を設定する。

<p>単元名 広さを調べよう（4 学年）</p>		<p>児童が書いた式だけ提示した。その式を見て、どのように分けたのかを別の児童に図にかき表させ、その後、その図を使って、また別の児童に式の説明をさせた。</p> <p>目指した児童の姿 よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりしようとする姿。</p>
--------------------------	--	---

<p>単元名 速さ（6 学年）</p>		<p>式はできたが、どちらが速いか結論が分からずにいる児童の式を提示した。なぜ困っているのか全体に考えさせ、計算で出た数値が何を表しているのか、なぜ速いと言えるのかを児童の発言をつないで確認していった。</p> <p>目指した児童の姿 よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりしようとする姿。</p>
---------------------	--	--

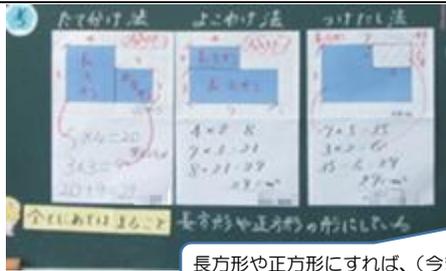
(イ) 発表を区切り、続きを考えたり、発表したことを他の児童が再現したりする場を設定する。

<p>単元名 速さ（6 学年）</p>		<p>「この数は何を表しているのかな？」と、それぞれの計算で出た数値が何を表しているのかを別の児童に説明させ、理解度を確認しながら進めた。</p> <p>目指した児童の姿 よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりしようとする姿。</p>
---------------------	--	--

<p>単元名 比例（6 学年）</p>		<p>「〇〇さんの考えは分かる？この式は、どんなことを表しているのだろう？近くの人と話し合ってみよう」と、児童が板書した考えを、少人数で解釈させたり、他の児童に説明させたりした。</p> <p>目指した児童の姿 よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりしようとする姿。</p>
---------------------	--	--

(ウ) 授業のねらいに応じた視点を基に、複数の考えの共通点を考えたり、よりよい考えを検討したりする場を設定する。

単元名 広さを調べよう (4 学年)



長方形や正方形にすれば、(今までに習った) 公式を使えるんだね。

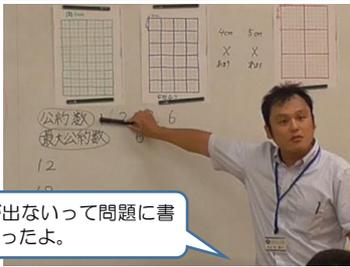
- ・児童から出た多様な考えの共通点や相違点を考えさせるために、その考え方が分かるようなネーミングをした。
- ・それぞれの考えの共通点を考えさせ、複合図形でも既習の学習を使って考えることができることに気付かせた。

目指した児童の姿

新たに得た知識や技能と既習の学習を関連付け、統合的に考えようとする姿。

(エ) 考えの共通点や相違点に目を向けて表現したり説明したりすることで、これまでの学習と関連付けたり、より根拠を明らかにしたり、よりよい考えに高めたりする場を設定する。

単元名 倍数と約数 (5 学年)



余りが出ないって問題に書いてあったよ。

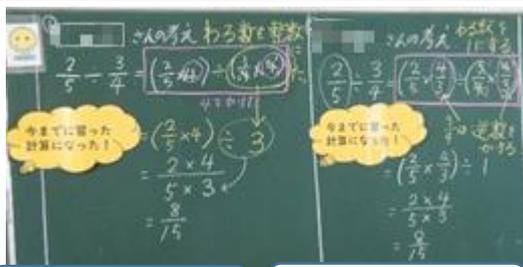
縦 18cm、横 12cm の長方形を、余りなく同じ大きさの正方形に切り取ることができる長さを発表させた後、共通点に目を向けさせた。児童から「公約数」という言葉が出たので、「どうのこと？」と問い返し、根拠を明らかにさせた。

目指した児童の姿

新たに得た知識や技能を既習の学習と関連付け、統合的に考えようとする姿。

(オ) 問題解決の過程が分かるように、キーワードとなる数学的な見方・考え方を明確にした板書計画を立てる。

単元名 分数のわり算 (6 学年)



わる数が分数だったからできなかつたんだね。

どっちも今までに習った計算になったよ!

分数÷分数の計算を、児童から出た考えを基に板書した。除数に着目し、除数が整数や1であれば、今までに習った計算と同じになることや、除数を整数や1にするためにわり算の性質を使えばよいことなど、問題解決の過程のキーワードが明確になるように板書した。

目指した児童の姿

新たに得た知識や技能を既習の学習と関連付け、統合的に考えようとする姿。